

# 原発反対と九条尊重訴える

## 宗教者九条の和 講演会

宗教者九条の和は2月18日、東京港区の浄土宗梅窓院で特別講演会「環境と平和を脅かす原子力」を開催し、約200人が集まった。講師は原子力行政を問う直す宗教者の会世話人で、日

本福音ルuter総教会牧師の内藤新吾氏。約200人が集まった。内藤氏は、静岡県御前崎市の浜岡原発の反対運動に長年携わってきた。「浜岡原発の立地は非常に脆い泥岩や砂岩で、地

震に弱い。また地震が起きたら地下から組み上げている冷却水路も崩壊する「防波堤を18メートルで作ろうとしているが、当初の計画では12メートルだった。そもそも防波堤が津波を正面からは防げたとしても、津波は河口を遡って背後から押し寄せるので無駄です」と弱点を次々に指摘。「リニア建設もこの際やめることです。リニアの電気も浜岡原発を動かさなければならなくなる」とも提起した。

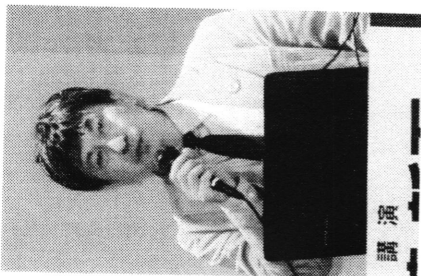
また、原発交付金を受けた自治体が、まるで麻薬の禁断症状のように交付金なしではいられなくなる危険性を指摘。「原発は貧しい地域がなければ成立しない。貧しい人が労働者にならなければ始まらないのです」と被曝労働者の人権侵害も懸念した。

さらに兆4000億円もかけて造られた高速増殖炉「もんじゅ」が、何の役にも立たず、核暴走を起さないとただけに毎日5500万円を費やしていることを「敦賀の全市民が使っよりも遥かに多い電気代をもんじゅ一基で使っているんです。異常ですよと断罪。

原発を国がやめようとしないうちに、核武装に繋がようとしているからだとも非難。「憲法九条が首の皮一枚で核兵器製造を

防いでいる」とし、九条遵守を主張した。その上で「米中と平和外交をしながら再生可能エネルギーを開発することが大切です。環境、平和、人権のすべてを脅かす原発は要りません。宗教者は命を守り危険を選ぎ捨てるものであれ、ということですよ」と呼びかけた。

その後、ピアノの嵯薺愛氏が、平和への思いを語りながら、バルトーク、メシアン、ショパンといった、戦争に傷つけられた作曲家たちの作品を演奏。それから内藤氏と日蓮宗僧侶の小野文雄氏が登壇し、会場からの質問に答えた。内藤氏は「本当に宗教者は宗派・宗教を越えて協力すべきです。宗教者からの意見というのは、地元の声よりもはるかに電力会社や国に効果があるので」とまとめ、宗教界の一層の奮起を求めた。



講演会「平和と環境と人権を脅かす原発」の講師、内藤新吾氏